

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192200026&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192200026&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳が守られ、安全安心に暮らしていただける環境づくり、サービス提供に取り組んでおります。最後の時を迎えられるまで、その方らしく過ごしていただける終の棲家になればと考えています。ご家族に対しても安心してご利用いただけるよう、信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が「ただいまと帰れる家になる」事業所を目指し、また、家族が笑顔で楽しみに訪問でき、職員は家族の一員になれるよう対応している。機能低下予防に食事の工夫や外出支援の充実を図り、協力医の助言や指導をうけながら利用者の健康に配慮している。終末ケアについても本人・家族の意向に合わせ、協力医と連携を取りながら、看取りに向け勉強会を開き利用者・家族が安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。職員とは個別懇談を行ない、外部講師を招き介護技術や接遇の研鑽を積みレベルアップを図っている。利用者・家族・事業所と信頼関係の構築に常に意欲的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

なごみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和すると共に勉強会を開くなどして、理念の共有、及び介護に対する意識の向上に努めている。	理念を具体化した心得を唱和している。勉強会で常に利用者の生きがいを引き出す支援を確認しながら、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、利用者様のなじみの場所に出かけたりして、昔からのなじみの方々と交流を持っている。また、近所の美容院や喫茶店に出向いたり、日常の散歩を行っている。地元の子育て支援センターと接する機会もある。	地域行事に参加し住民と交流している。保育園の運動会に参加したり、七夕やクリスマスに園児を招待し一緒に楽しんでいる。小・中学生の福祉体験も受け入れている。しかし、地域住民に対し事業所の行事への参加呼びかけが出来ていない。	運営推進会議や自治会長を通じ事業所の行事案内をし、積極的に参加を呼びかけ、地域との交流を深める働きかけをされることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小中学生の就労体験を受け入れさせていただき、児童やその家族に向けて情報を提供している。また、運営推進会議時に家族や、来賓の方々に認知症について理解をしていただけるようお話させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動内容や、事故報告をさせていただいている。参加者と意見交換をさせていただき、サービス向上に生かしている。ご意見については会議録に記載し、参加者、ご家族に発送している。	隣接する4事業所合同で開催し、参加メンバーも増え活発な要望や意見交換ができています。詳細に記載された議事録も家族に送付している。しかし、個々の事業所毎の意見が聞かれず運営に反映できていない。	合同開催の良さを活かしつつ、事業所独自の話し合いの時間をつくり個別に要望を尋ね、より身近な意見交換が得られる努力を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課、消防署、地域包括の担当者の方に、利用者の生活や、アクシデントについて報告し、助言を受けている。	介護保険更新手続き・入退居などの書面提出時や利用者の状況報告に出向いて助言を仰いだり、相談をしている。会議などで会えば積極的に声を掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことについての勉強会を実施し、職員の認識を高めている。利用様が、自由かつ安全に過ごしていただけるよう、見守りの工夫と徹底を図っている。事業所周辺は、水路、幹線道路があり、番号ロックしているが、日中は利用者が玄関にこられた際は声をかけ、ご希望を聞き、散歩や花を摘みに行くなどしている。	職員は身体拘束の弊害について理解に努め、玄関のオートロック解除に向け種々検討努力している。常に利用者の行動を見守り、一緒に散歩に出掛けるなど、その人に合わせた支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施し、見過ごされてしまうような虐待についても話し合い職員の共通認識を高めている。福祉相談センター主催の研修にも参加している。職員の体調管理にも注意し、管理者やケアマネに些細なことでも言えるような雰囲気作りを努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉相談センター主催の権利擁護の研修に参加し、伝達研修を実施している。情報提供したことにより成年後見制度を利用されている方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する姿勢を説明させていただくとともに、連携体制や、料金システム、リスクなどについて説明し同意を取っている。状態の変化などにより契約解除に至る場合も、その後の対応も含め納得のいくように、話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、利用者家族アンケート、また日々の会話の中で利用者や、ご家族から意見を頂き、ケアに反映している。意見を言いやすい雰囲気作り心がけている。	家族アンケートに運営推進会議参加についての項目を追加し意見・要望を聞き、その結果も報告している。毎月利用者の暮らしの状況を報告し、電話や訪問時に積極的に声掛けして要望など尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング、個別面談で意見を聞くようにしている。日ごろから、職員の要望や意見を聞き、運営に反映している。	年2回個別面談で率直な意見や悩みを聞いている。夜間勤務やケアに対する精神的負担など、働きやすい環境づくりを検討している。外部講師を招き接遇、介護技術などの学習をし職員のレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、職員の体調や家庭の事情に合わせた勤務状況を心がけるとともに、その中で向上していけるよう、研修案内をし、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を作成し、個々の状況に応じて研修を受けられるようにしている。受講した研修について復命書を提出していただくほか、伝達講習を行っている。新人教育についてもプリセプターをつけ、期間ごとに評価を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリア形成訪問指導事業を活用する等、外部から講師を招き、他事業所と合同勉強会を行ったり、海津市内4施設で合同運動会を開催したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談でご本人とご家族から、生活状況、今後の生活に対する思いを把握し、安心して暮らしていただける環境になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービスの利用状況を伺うと共に、ご苦勞を労い、今後の生活の方向性について相談させていただいており、要望について事業所としてどのように対応できるかを示し、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用にあたり、心配事や不安なことがないかご本人を交えた面談、情報収集をし何が必要なか見極めケアに繋げている。その中で、事業所としてできることとできないことを話し合い、少しでも必要としている形になるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者には色々なこと学ばせていただいたり、励ましていただいており、感謝している。個々の役割を持っていただき、日々を過ごせるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の状況を家人に繰り返し伝え、ご相談させていただくことで、自分の家の中のこととして捉えていただき、共にご本人を支えていくための協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の経営していたお店を尋ねたり、馴染みの神社に参拝したり、知人、友人に訪ねていただけるよう、家人に働きかけたりしている。	子どもの頃からの馴染みの神社に参拝している。家族と協力して友人や幼友達に声掛けし、生活の一部となっていたお店で出会うよう設定するなど関係継続の支援に努めている。病院受診時に出会った知人が訪問される事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞かせていただけるような場所を設けたり、利用者同士の関係がうまくいくよう良き媒介者になれるよう、職員同士で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、情報交換し、きめ細かい連携を心がけている。遠方に移られた方にも、ケアについて詳細に記入したサマリーをお渡しし、また、先方の施設と連絡を取り必要としているケアについて話し合った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで言動、行動や、表情を見せていただく中で、職員同士で情報を共有し、本位を押し回し、それとなく確認している。意思疎通が困難な場合は、家族に確認している。	入浴時、夜間など利用者とはゆっくり向き合える時に話を聞いている。事務所のテーブルの位置を変えた事で利用者が「話がある」と立ち寄り、年金・帰りたい・家族のことなど多くの希望や思いを聞くことが出来るようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までを知るために、家族や連携施設に協力していただき、情報把握に努めている。必要なときはご家族の許可を得て、面会にこられる知人、友人にも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その方の全体像の把握に努めている。できることを探し、できる喜びを共有できるような働きかけに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族と日ごろから話し合い、ケアに反映させている。月に一度はモニタリングし、必要であれば話し合いの場を持って、活発な意見交換を行い、計画に盛り込んでいる。	本人・家族に意向を聞き検討シートに気づきを記入し、介護記録をもとに会議で検討して介護計画を作成している。退院後の機能低下などがあれば医師のアドバイスを参考に介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況、ケアの記録、暮らしぶりを記載し、新しい個別ケアについては別紙を用意し職員間の情報共有を徹底すると共に、介護計画を見直すことで評価し、次のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況に応じて、通院、衣類、介護用品の購入、公の申請に関する助言など、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、行政、消防署、警察、自治会、民生委員、福祉推進委員、老人クラブ等に参加していただき、苑の活動状況を知っていただく共に、地域の情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当苑でのかかりつけ医に限らず、ご希望の医師に受診できるよう、医師、家族と連携をとっている。ご本人、家族の希望に応じて受診できるように対応している。基本的には家族の同行となるが、不可能な場合は看護職が代行している。	かかりつけ医と協力医が同一の利用者が多く、訪問診療日に限らず必要に応じ受診している。緊急時や看取りまで適切な指示が受けられ、医師や家族と連絡を取りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が配置されており、常に利用者の心身の状態について把握している。介護職は小さな変化も見逃さず、看護職に報告し、適切な医療やケアが受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐために2～3日に一度は看護職が見舞いに行き、看護師や医師とも話をするようにしている。家族とも適宜お話をさせていただき、速やかに苑に戻ってきていただけるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や、家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を密にとり、家庭的な雰囲気の中で安心して最後を迎えられるような環境を提供できるよう努力している。ターミナル期の利用者の経過をみていくことで、職員の学びが多くあった。	契約時に看取りの指針を説明している。利用者の状況に合わせ、その都度、家族の思いを尋ね医師と話し合いながら支援している。また、看取りケアについて勉強会を開き、適切に対応できるよう学習をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応についてのマニュアル、応急手当や救急車が来るまでに準備すべきことについての勉強会を実施し、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導下で年に2回利用者と共に防災訓練を実施し、消防署の総評を元にマニュアルや整備の改善を図っている。運営推進会議で、家族、自治会と情報交換し協力体制作りにも努めている。	4事業所合同の訓練と、事業所独自の夜間避難訓練を実施している。消防署の指導や職員の反省事項・マニュアルなど、改善点について検討している。自治会長の協力意向があるが、地域住民の協力が得られていない。	運営推進会議で地域住民の避難訓練への協力について取り上げられていたので、今後さらに話し合いを重ね、協力や参加が得られる体制を構築されること望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという共通認識のもと、援助が必要な方にもさりげない、他の方には気付かれないような介護を心がけるよう、職員に周知徹底している。	トイレ誘導・失禁時など、利用者一人ひとりの人格を尊重する対応を心掛けている。外部講師を招き、接し方、声のかけ方・電話の受け方などの学習をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、疎通が困難な方には、ホワイトボードやメモを使用したり、表情や行動から気持ちを汲み取る努力をしている。選択できる場を持つようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、個々の気持ちを大事にし、利用者のペースで生活できるよう配慮している。利用者のリクエストで外出もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好み、季節に合ったおしゃれを楽しんでいただけるよう、家族に連絡し衣類の補充をお願いしている。希望で美容院に行っていたり、美容師さんに来て頂いたりして、好みの髪型にしている。希望があれば化粧品の補充もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや、希望を聞きながら食事作りしている。また、食事から季節を感じていただけるよう工夫している。食事の準備や片づけを一緒に行ったり、職員と利用者が共にテーブルを囲んで食事することで、コミュニケーションの場となっている。	ユニットごとに同じ食材を使い、別々の献立を工夫している。職員も一緒にテーブルを囲み、調理担当者の「こんな工夫してみたけど食べてみて・・・」など話題を投げかけながら、急かせず、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量、栄養バランスについて確認し、捕食が必要な方にはその時々に合わせて、お出ししている。また、食事形態にも考慮し、少しでも手作りの食事を召し上がっていただけるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔の状態に合わせた方法で、毎食後の口腔ケアをしている。口腔内の状態の悪化が認められる場合は、速やかにかかりつけ医に相談している。		



グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや、排泄状況を把握し、小さなサインでも見逃さないようにし、トイレで排泄できるように支援している。失敗があっても、ご本人の傷つかないような配慮を心がけている。	布パンツを基本に、時間を見計らって声掛けしトイレで排泄出来るよう支援している。夜間ポータブルの利用者も声掛け誘導し、トイレで排泄している。入居後、生活習慣が整いオムツから自立に繋がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、活動状況、摂取状況を把握し、少しでも自然な排便があるように、働きかけている。食事は食物繊維の多いものがたくさん取れるような工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人のその日の気分や体調に合わせて、入浴にお誘いしている。入浴が職員とのコミュニケーションの場になるよう和やかな雰囲気が入浴できるよう心がけている。	特浴・個浴介助・一人入浴と選んでもらい、希望に合わせて毎日入浴する利用者もいる。ゆったり入ることを心掛け人生相談の話題もできることもあり、気分を和ませたり、楽しい雰囲気が入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のバランスに気をつけ、ご本人のタイミングで安心して、就寝できるよう配慮している。希望があれば好みの寝具を持ってきていただき使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬剤について、職員が周知できるよう内服薬の説明書を掲示してある。薬剤の変更があったときは、申し送りメモに記載し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の気の向く家事をお手伝いいただき、役割とさせてもらっている。今までの楽しみごとをこちらでも継続して続けられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が以前営んでおられたお店を訪問したり、お弁当を持って近くの公園に行ったり、個人的な外出、外泊の希望のある時はご家族にお願いするなどして、希望がかなえられるよう配慮している。	日常は散歩や隣接の事業所へおしゃべりに出掛けている。図書館や買い物、喫茶店へ、小人数でドライブにも出掛けている。季節に合わせて弁当持参で花見や公園に行き、楽しい時間を過ごしている。また、テラスで日光浴や外気にふれるよう心掛けている。	



グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については希望があれば、ご家族と相談して事業所で管理させていただけるよう準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや、電話をかけるお手伝いをしている。電話されるときは会話が聞こえないような工夫をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花や、果物を飾ったり、利用者の馴染みの物や、懐かしさを感じれるものを飾ったりしている。清潔はもちろん湿度、気温、明るさなどの環境も居心地のよいよう配慮している。	居室の入り口に屋根をつけ、和風の雰囲気や漂わせ、高天井で採光や室温・臭気も適切である。コタツコーナーからはテラスの洗濯物・田園・施設・病院が望まれ生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、縁台、椅子、ソファを置き、人の気配を感じながらも、思い思いに過ごせるような空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、馴染みのものや思い出の写真を持ってきていただいている。事業所内での行事も写真で飾ることで、思い返して楽しめている。	着替えの服をハンガーに掛けている。昼間はポータブルにカバーを掛け椅子にしたり、身体状況に合わせ怪我の無い様に夜間は床にマットを敷く工夫をしている。好みの枕の向き、ソファや家族の写真などで、暮らし慣れた居室となるよう本人・家族と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱をきたした要因を排除し、安心して自立した生活を送れるよう、環境を整備するよう心がけており、家族、利用者、スタッフで話し合っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成23年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192200026&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192200026&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

やすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和すると共に勉強会を開くなどして、理念の共有、及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、利用者様のなじみの場所に出かけたりして、昔からのなじみの方々と交流を持っている。また、近所の美容院や喫茶店に出向いたり、日常の散歩を行っている。保育園児と交流を持てる機会をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小中学生の就労体験を受け入れさせていただき、児童やその家族に向けて情報を提供している。また、運営推進会議時に家族や、来賓の方々に認知症について理解をしていただけるようお話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動内容や、事故報告をさせていただいている。参加者と意見交換をさせていただき、サービス向上に生かしている。ご意見については会議録に記載し、参加者、ご家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課、消防署、地域包括の担当者の方に、利用者の生活や、アクシデントについて報告し、助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことについての勉強会を実施し、職員の認識を高めている。利用様が、自由かつ安全に過ごしていただけるよう、見守りの工夫と徹底を図っている。事業所周辺は、水路、幹線道路があり、番号ロックしているが、日中は利用者が玄関にこられた際は声をかけ、一緒に散歩や花を摘みに行くなどしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施し、見過ごされてしまいそうな虐待についても話し合い職員の共通認識を高めている。福祉相談センター主催の研修にも参加している。職員の体調管理にも注意し、管理者やケアマネに些細なことでも言えるような雰囲気作りに努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉相談センター主催の権利擁護の研修に参加し、伝達研修を実施している。情報提供したことにより成年後見制度を利用されている方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する姿勢を説明させていただくとともに、連携体制や、料金システム、リスクなどについて説明し同意を取っている。状態の変化などにより契約解除に至る場合も、その後の対応も含め納得のいくように、話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、利用者家族アンケート、また日々の会話の中で利用者や、ご家族から意見を頂き、ケアに反映している。意見を言いやすい雰囲気作り心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング、個別面談で意見を聞くようにしている。日ごろから、職員の要望や意見を聞き、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、職員の体調や家庭の事情に合わせた勤務状況を心がけるとともに、その中で向上していけるよう、研修案内をし、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を作成し、個々の状況に応じて研修を受けられるようにしている。受講した研修について復命書を提出していただくほか、伝達講習を行っている。新人教育についてもプリセプターをつけ、期間ごとに評価を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリア形成訪問指導事業を活用する等、他事業所と合同勉強会を行ったり、海津市内4施設で合同運動会を開催したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期からスムーズに生活に入っただけのように、事前の面談でご本人とご家族から、生活状況、今後の生活に対する思いを把握し、安心して暮らしていただける環境になるよう努め、職員間で事前に情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービスの利用状況を伺うと共に、ご苦勞を労い、今後の生活の方向性について相談させていただいており、要望について事業所としてどのように対応できるかを示し、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用にあたり、心配事や不安なことがないかご本人を交えた面談、情報収集をすることで、その利用者に必要なのか見極め、ケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者には色々なこと学ばせていただいたり、励ましていただいております、感謝している。個々の役割を持っていただき、日々を過ごせるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の状況を家人に繰り返し伝え、ご相談させていただくことで、自分の家の中のこととして捉えていただき、共にご本人を支えていくための協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の経営していたお店を尋ねたり、馴染みの神社に参拝したり、知人、友人に訪ねていただけるよう、家人に働きかけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞かせていただけるような場所を設けたり、利用者同士の関係がうまくいこう良き媒介者になれるよう、職員同士で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、情報交換し、きめ細かい連携ができるよう準備している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言動から、一人ひとりの思いや希望を理解するよう、努力している。繰り返す事で信頼関係が構築され、気持ちを引き出すことで、本人本位のケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までを知るために、家族や連携施設に協力していただき、情報把握に努めている。必要なときはご家族の許可を得て面会に来られる知人、友人にも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方を理解し、できることはしていただくことで、よりご本人の全体像を知り、ご本人の意欲や自身に繋がるような働きかけができるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族と日ごろから話し合い、ケアに反映させている。月に一度はモニタリングし、必要であれば話し合いの場を持って活発な意見交換を行い、計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況、ケアの記録、暮らしぶりを記載し、新しい個別ケアについては別紙を用意し職員間の情報共有を徹底するとともに、介護計画を見直すことで、評価し、次のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況に応じて、通院、衣類、介護用品の購入、公の申請に関する助言など、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、行政、消防署、警察、自治会、民生委員、福祉推進委員会、老人クラブの方々に、参加していただき、事業所の活動状況を知っていただくと共に、地域の情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当、事業所のかかりつけ医に限らず、ご希望の医師に受診できるよう、医師、家族と連携をとっている。ご本人、家族の希望に応じて受診できるように対応している。基本的には家族の同行となるが、不可能な場合は看護職が代行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、常に利用者の心身の状態を把握している。介護職は小さな変化を見逃さず、看護職に報告し、適切な医療やケアを受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐために、2～3日に一度は看護師が見舞いに行き、看護師や医師ともお話をするようにしている。家族とも適宜お話をさせていただき、速やかに、事業所に戻っていただけるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や、家人の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を密にとり、家庭的な雰囲気の中で安心して最後を迎えられるような環境提供できるように、常日頃から、信頼関係を構築する共に、今後はターミナル期の勉強会なども行っていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応におけるマニュアル、応急手当や救急車が来るまでに準備をするべきことについての勉強会を実施し、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導下で年に二回、利用者と共に防災訓練を実施し、消防署の総評を元にマニュアルや整備の改善を図っている。運営推進会議で、家族、自治会と情報交換し協力体制作りを努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である利用者一人ひとりの尊厳や誇りを大切に、言葉がけや、プライバシーに配慮したケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの性格に合わせた言葉がけに配慮し、思いを表出しやすい雰囲気や場を作れるようにしている。また、日常生活の中で、選択する場を作るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、個々の気持ちを大事にし、利用者のペースで生活できるよう配慮している。利用者のリクエストで散歩や喫茶店にも行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好み、季節に合ったおしゃれを楽しんでいただけるよう、家族に連絡し衣類の補充をお願いしている。希望で美容院に行っていたり、美容師さんに来て頂いたりして、好みの髪型にしている。希望があれば化粧品の補充もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや、希望を聞きながら食事作りしている。また、食事から季節を感じていただけるよう工夫している。食事の準備や片づけを一緒に行ったり、手作りおやつを利用者に作っていただいたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量、栄養バランスについて確認し、捕食が必要な方にはその時々に合わせて、お出ししている。また、食事形態にも考慮し、少しでも手作りの食事を召し上がっていただけるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔の状態に合わせた方法で、毎食後の口腔ケアをしている。口腔内の状態の悪化が認められる場合は、速やかにかかりつけ医に相談している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや、排泄状況を把握し、小さなサインでも見逃さないようにし、トイレで排泄できるように支援している。失敗があっても、傷つかないような配慮を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、活動状況、摂取状況を把握し、少しでも自然な排便があるように、働きかけている。食事は食物繊維の多いものがたくさん取れるような工夫をしている。お茶で便秘予防ができないか検討中。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のその日の気分や体調に合わせて、入浴にお誘いしている。入浴が職員とのコミュニケーションの場になるよう和やかな雰囲気が入浴できるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のバランスに気をつけ、ご本人のタイミングで安心して、就寝できるよう配慮している。希望があれば好みの寝具を持ってきていただき使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬剤について、職員が周知できるよう内服薬の説明書を掲示してある。薬剤の変更があったときは、申し送りメモに記載し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の気の向く家事をお手伝いしていただき、役割とさせてもらっている。今までの楽しみごとをこちらでも継続して続けられるように支援している。計算プリントが好きな		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が以前営んでおられたお店を訪問したり、お弁当を持って近くの公園に行ったり、個人的な外出、外泊の希望のある時はご家族に願うなどして、希望がかなえられるよう配慮している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については希望があれば、ご家族と相談して、事業所で管理させていただき、外出などのときは自分で払っていただけるように、お金を手渡せるよう用意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人には電話ができるような雰囲気作りに努め、希望があればかけていただいている。電話の会話は聞かないようにしている。手紙は歓迎しているものの、返信はなかなかできておらず、今後の課題である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は懐かしい雰囲気がある構えになっており、利用者の作った作品や、摘んできた花などが飾ってある。また、季節を感じていただけるような工夫を心がけている。また、居心地のいい空間になるよう、温度、湿度、光、においなどに気をつけた環境整備を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に人の気配を感じながらも、ソファ、縁台、椅子の配置を工夫し、独りにもなれ、また、仲間同士でも過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、馴染みのものや思い出の写真などを飾れるようにしている。事業所内の行事も写真を飾り、思い返しコミュニケーションの材料になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱をきたした要因を排除し、安心して自立した生活を送れるよう、環境を整備するよう心がけており、常に、職員で話し合い、家族にもご相談させていただいている。		